

令和元年度富山国際大学付属高校学校評価

富山国際大学付属高等学校

(1) 確かな学力向上に向けた教員の指導力の向上

具体的目標	①生徒に興味・関心を持たせ学習意欲を刺激し学力を向上させるよう、教材研究と授業の工夫を行う。 ②学習指導要領にそった新たな教育を展開できるよう、教材の精選・シラバスの作成と進度の確認・授業の工夫・試験問題の検討などを行う。 ③校内外における研修を通して授業力を高める。 ④ICT教育を推進し、アクティブ・ラーニングを充実させることで生きる力を育む。
本年度の取組	①新課程の定着により、計画的に授業をすすめることができた。 ②シラバスにもとづいた授業、授業内容の打ち合わせ、テスト問題や課題の検討などが行われた。 ③外部の学校見学、予備校での授業研究等に30名程度が参加した。 ④全教科でiPadを使った授業の試みが多くなされ、公開授業を行った。
成果	・新課程の求める、教えた(input)知識を言語活動(output)で定着させる授業方法が多く試みられた。 ・iPad(第2の言語)の活用で、教員の「新しい教育観」に対する意識が徐々に変化し、時代にあった教育方法を研究する意識が芽生えつつある。
反省と課題	・積極的に新規の教育法に取り組む教員も増えてきたが、まだその機運が全体に広がっているとまではいえない。 ・成績下位者の手当や不得意科目の克服にやや重点を置きすぎている。上位者に対する個別指導が徹底されていない。 ・常勤教諭と非常勤講師でのiPad活用の差が解消されない。
評価の観点	①個の指導の充実 ②教員の教科指導力 ③教員の生活指導力 ④生徒の満足度 ⑤情報の公開度
観点別自己評価	総合評価 3.2 (大変良い=4、良い=3、悪い=2、大変悪い=1として算出) ①定期的な面談等、生徒自身に費やす時間が増えている。 3 ②外部研修に積極的に参加する教員が増えた。 3 ③問題行動の発生数は減少したが、抜本的な解決につながっていない。 3 ④意欲の高い生徒の満足度が相対的に低い。 3 ⑤積極的に情報公開を行っている。 4
評価委員会評価	以下の観点で4段階評価をお願いいたします。 ①個の指導の充実 ②教員の教科指導力 ③教員の生活指導力 ④生徒の満足度 ⑤情報の公開度
	個別評価 ①3.1 ②3.1 ③3.2 ④3.0 ⑤3.3

(2) 正しい職業観と明確な進路意識の育成

具体的目標	①保護者・卒業生や上級学校から講師を招き、進路意識を育む。 ②様々な国から講師をまねき「国際理解講座」を開催し、正しい世界観・社会観を育成する。 ③ 自らの進路を主体的に切り開く能力を涵養できるよう、新たなプログラムを研究開発する。	
本年度の取り組み	①キャリア教育の一環として「仕事を考えるシンポジウム」・「学校説明会」・「上級学校見学会」・「体験入学」・「職場見学会」・「高大連携授業」などを実施。 ②各界から講師を招き、年 15 回程度の国際理解講座を実施。 ③ 学校行事と学習活動を結び付ける新たなプログラムを研究中。	
成果	・生きる力に結びつく、様々な教育機会を提供した。 ・学校行事と学習活動との連携意識が教員間に浸透してきた。	
反省と課題	・ 1・2 年で実施したキャリア教育で育てた進路意識と偏差値による進学指導の間に整合性がない。 ・ 充実した内容の「国際理解講座」が展開されている。 ・ 各教科で「生きる力」を育み、学校行事でそれを定着させるという学習活動が定着していない教科が多い。教科間の差が大きい。	
評価の観点	①進路関係行事の内容 ②国際理解講座の内容と認知度 ③行事とカリキュラムの連携の進捗度 ④進学・就職実績	
観点別自己評価	総合評価 3. 2 5 (大変良い=4、良い=3、悪い=2、大変悪い=1 として算出) ①キャリア教育では外部の力に頼る場合がある。 3 ②キャリア教育の内容は充実している。 3 ③学習活動と行事の連携という考え方が教員間に徐々に普及してきた。 4 ④推薦入試では成果を収めているものの、一般入試ではまだ満足な成果をあげていないとはいえない。 3	
評価委員会 評価	以下の観点で4段階評価をお願いいたします。	
	①進路関係行事の内容	① 3. 1
	②国際理解講座の内容と認知度	② 3. 3
	③行事とカリキュラムの連携の進捗度	③ 3. 2
	④進学・就職実績	④ 3. 1

(3) 心豊かな人間性の育成

具体的目標	①円滑な人間関係を築き、主体的に人生を生きる力を涵養する。 ②校則を遵守することなどを通して規範意識の向上を図る。 ③学習活動、学校行事、部活動に主体的に取り組める生徒を育てる。 ④問題を抱えている生徒を早期に発見する。 ⑤国際性を重視した教育を行う。	
本年度の 取組内容	①朝の校門での挨拶を全教職員で行っている。E S Dの理念を理解できるように文化祭のテーマの柱とした。 ②部活動の生徒の持つ高い規範意識を、全校生徒へ広める工夫をした。 ③生徒が主体的に学校行事を運営すべく努力している。また、授業においても生徒主役の授業を研究している教員が増えた。 ④教育支援制度を整え、相談室機能の強化に努めた。 ⑤国際交流を積極的に行っており、8カ国10校と活発な姉妹校・協力校交流を行った。	
成 果	・学校行事への参加姿勢が積極的になった。生徒からの挨拶が増えてきた。 ・E S Dの理念についての理解が徐々に進んでいる。 ・生徒の規範意識が高まりつつある。 ・相談室に依存する生徒の数が減少した。 ・違いをそのまま受け入れるという素晴らしい能力が育ちつつある。	
反省と課題	・主体的な生きる力を育てようという意識が相対的に低い。 ・行事などでE S D関連の活動をさらに増やしていく必要がある。 ・規範意識を高めることに主体をおいた生徒指導への切り替えを進めていく必要がある。 ・問題が多様化し、教員の意識・常識が追いつかない事例がある。 ・ホストファミリー登録をする家庭が増え、短期間の留学生受け入れ態勢は整ったが、長期間の留学生を受け入れる希望者が少ない。	
評価の観点	①生徒の問題行動 ②教員の生徒への対応の質 ③生徒の自主性と行事の運営度 ④問題を抱えた生徒の教室復帰の度合い ⑤国際交流の内容	
観点別 自己評価	総合評価 3. 2 (大変良い=4、良い=3、悪い=2、大変悪い=1として算出) ①生徒の問題行動において深刻な度合いのものは減少した。 3 ②教員は生徒に対する言動が適切なものとなるよう注意を払っている。 3 ③部活動運営は生徒の負担を考えたものへとシフトしている。 3 ④相談室から教室復帰した生徒は微増している。 3 ⑤国際交流の内容は充実している。 4	
評価委員会 評価	以下の観点で4段階評価をお願いいたします。	個別評価
	①生徒の問題行動 ②教員の生徒への対応の質 ③生徒の自主性と行事の運営度 ④問題生徒の教室復帰の度合い ⑤国際交流の内容	① 3. 1 ② 3. 2 ③ 3. 0 ④ 3. 1 ⑤ 3. 5

(4) 教育環境の充実

具体的目標	①体育施設の充実を図る。 ②ＩＣＴ教育推進のための情報環境の増強を図る。 ③自学自習用の教室を整備し、面接用の個室を増やす。 ④各フロアに芸術作品を展示し、休憩スペースを設ける。	
本年度の 取組内容	①グラウンドの補修工事実施、ピロティの人工芝の張り替え計画。 ②普通教室及び主要特別教室の無線ＬＡＮ工事、ホワイトボード・プロジェクターの維持管理。 ③職員室前の学習室を整備、及び、旧生徒指導室第２室を面談室として整備。 ④絵画など芸術作品の追加。	
成果	・部分的補修を続けることにより、グラウンド状況はやや改善した。 ・全学年で iPad を導入した結果、様々な形の授業が実施されている。 ・プロジェクターとホワイトボードを有効活用することで、授業の効率化をはかることができた。 ・進路指導の面談などを効率よく行えるようになった。 ・芸術作品を増やし、安らぎのスペースが広がった。	
反省と課題	・改修によりグラウンドの状況は改善しつつあるが、グラウンドを利用する部活動の部員数が増え、手狭になってきた。サブグラウンド等の整備を計画する必要がある。 ・最先端の ICT 環境構築のため、常に情報室の設備を更新し続けていく必要がある。 ・学習室、面談室の増加にも限界があるので、より効果的な指導を心がける必要がある。	
評価の観点	①生徒数に対応した体育施設の整備 ②ＩＣＴ環境の整備 ③学習室・面談室の整備 ④やすらぎスペースの整備	
観点別 自己評価	総合評定 3.25 (大変良い=4、良い=3、悪い=2、大変悪い=1として算出) ①生徒数に対して施設の広さが十分とはいえない。 2 ②ＩＣＴ教育の推進のために県内最先端の環境が整っている。 4 ③学習室・面談室の整備が進み、効果的な指導につながった。 4 ④休憩時間にくつろげるスペースがある程度整備された。 3	
評価委員会 評価	以下の観点で４段階評価をお願いいたします。	個別評価
	①体育施設の整備状況 ②普通教室でのＩＣＴ環境 ③学習室・面談室などの特別教室の整備状況 ④やすらぎスペースの整備状況	① 2.8 ② 3.5 ③ 3.4 ④ 3.1